

早稲田大学社会科学部

周 藤 ゼミ

現代社会学

研究

パンフレット

2013

社会学への誘い

「社会学」と聞いてみなさんは何を思い浮かべられるでしょうか。「社会学」の講義を受講したことがない人も、あるいはもしかしたら受講したことがある人でさえ、社会についての学問であること以上にはよくわからない、漠然としたイメージしかもっていない人も多いのではないかと思います。

実は、「社会学とは何か」という質問は、専門に社会学を研究しているはずの社会学者を、苦しめる質問のひとつです。しかしながら、同様な問いは、政治学や経済学など他の社会科学に対して立てられる機会が少ないことと考え合わせるならば、なぜ社会学にかぎって「社会学とは何か」ということが問題になるのでしょうか。「社会学とは何か」という問いの中には、社会学という学問の対象である社会と、そうした社会を対象とする社会学という学問の性質をめぐる秘密が隠されているのです。

「社会学とは何か」という問いが発せられるのは、社会学の対象であるところの「社会」の性質に起因しています。われわれはこんにち「社会」なる語を日常語として使用しますが、そこではなぜ「社会」という概念を用いなければならないのか、「社会」という概念は何を意味しているのか、一度考えてみるといいと思います。「社会」というのは、ときには具体的な組織や集団を表したり、われわれの生活世界そのものを表したりもします。しかし、「社会」という概念が固有にもつ特性としては、そうした具体的な組織や集団、生活世界を超え、われわれ個人の実存を超えた抽象的な存在であったりするところにあるのではないのでしょうか。

こうした抽象概念としての「社会」というものの性質は、「社会」が純粋な「想像の共同態」という性質を伴って存立する〈夢〉のような存在であることを示しています。そして、このことはまた、そうした「社会」というものを捉えることを目的とした社会科学というものがそうした〈夢〉とともにあることを示しています。社会学は、そうした〈夢〉とともにありつつ、「最後の社会科学」としてそうした〈夢〉の中から分化して成立した学問であることにおいて、社会科学において独特の位置を占めることになりました。すなわち、社会学という学問は、〈夢〉としての位置を保持しつつ、この〈夢〉に対して真摯であることを要求される学問です——こうした社会学のもつ性質は、(〈夢〉に対して)〈覚醒〉した学問として、絶え間ざる反省を促されることによって、社会学することに独特の厳しさをもたらすとともに、社会学が「大人の学問」であると謂われる所以になっています。

このことは社会学の学問的アイデンティティの問題としても語られてきました。たとえば、社会学は、その対象たる社会の性質上、他の科学と重なる領域を扱ったり、他の科学が扱っていない隙間の領域を扱ったりすることが往々にしてあります。このような社会学の性質は、ときに「侵略科学」であるとか「残余科学」であると揶揄されたりもしてきました。それならば、他の学問とは異なった社会学の固有性はどこに存在するのでしょうか。他の科学が扱っていない領域を扱うことも社会学の固有性のひとつですが、同一の対象を扱っても別の見方を提供するというのもそのひとつです。社会学が「常識破壊ゲーム」と言われるように、常識では捉えられなかった領域に焦点を当てたり、常識とは異なる見方を提供したりすることを通して、真理を探究するということを社会学の学問的アイデンティティのひとつとすることは、こうした社会というものの性質と社会学という学問の起源に由来するものです。

しかしながら、「新興」の学問である社会学が、新たな見方を提供する一方で、その影響が広まるにしたがって、他の学問領域も社会学からの影響を受けてきました。すなわち、他の学問領域の社会学化、つまり、社会学が他の領域との間の境界を侵犯するだけでなく、今度は逆に他の学問領域が社会学との間の境界を侵犯するというわけです。それでは、こうした段階を経て、社会学は他の学問領域から侵食を受けて、消失してしまうのでしょうか。

確かに、他の学問領域が、社会学の長所を吸収して、自らのものにしていくということはこれからもあるでしょう。しかしながら、いつの時代も、組み尽くされない残余領域があることは、近年出てきたカルチュラル・スタディーズや、ジェンダー・スタディーズなどといった比較的新しい領域が、社会学

と近接していることを考えてもよいでしょう。あるいは、社会学が他の学問領域から侵食を受けてもなお、既存の学問領域に対して、新たな知見を提供していくかもしれません。

こうした、「消失」していく社会学の性質に対して、社会学の中心的な固有性として考えなければならぬのは、その「人間中心主義」としての性格にあると思います。これは、社会学が、人間科学として心理学や教育学や人類学とも近い関係にあたり、人文科学として哲学や歴史学などとも近い関係にあるということを考えてもよいでしょう。そして、このこともまた社会学が「社会」を固有の対象とするところから生まれる性質とかかわっています。すなわち、「社会」という〈夢〉の存在は、その〈夢〉から覚醒するところにおいて、〈私〉の経験をかかわってくるのです。

こうした社会学のもつ性質は、社会学に独特の厳しさをもたらします。ときに社会学は、「社会学する意志」をもつものを拒み、「社会学する意志」によって達成されるものではなく、結果として達成することができるかもしれない（しかしそのような保証はどこにもない）、〈夢のまた夢〉の学問であると感じられることもあると思います。

しかし、社会学は決して難しいものではなく、おもしろいものです。社会学が切り拓く新たな知見、新たな見方は、常識的なものの見方に対して、人生を豊かにしてくれます。また、社会学でできる研究テーマは、別にゼミ生の研究テーマを挙げているように、現代社会の問題から人間社会の文化・歴史にかかわるものまで多岐にわたり、およそ人間の社会生活にかかわる事物すべてが対象になりうる「なんでもアリ」という社会学の性質が如実に現れる結果となっています。こうしたさまざまなテーマをもった学生がゼミで一同に会して議論ができるところも社会学の特徴の一つです。

このような社会学の特徴は、社会学が根源的に学際性 (inter-disciplinary) をもった学問であることを如実に合わせています。しかし、注意していただきたいのは、上に述べてきたように社会学はひとつの学問分野 (discipline) であることです。残念ながら社会科学部において社会学というディシプリンを学べる機会、それほど多くはないと思いますが、コア科目「社会学入門」の講義では、現代社会学のエッセンスを紹介していますので、社会学的思考のおもしろさを感じたり、他の学問分野のオルターナティブとしての社会学の可能性に関心をもったりしたならば、ぜひ社会学を勉強してみませんか？ みなさんと一緒に「熱い社会学」を目指したいと思っています。

(担当教員：周藤 真也)

担当教員の紹介

周藤 真也 (すとう しんや)

早稲田大学社会科学部准教授



1970年 島根県生まれ。筑波大学大学院博士課程社会科学部研究科社会学専攻単位取得退学。一橋大学大学院社会学研究科助手などを経て、2004年4月に早稲田大学に着任。専門分野は、社会学（理論社会学、知識社会学、社会学説史）。「社会的なるもの」に対する想像力とその歴史を社会学史や精神医学史を中心に追っている。現象学から現代思想まで関心領域は広い。著書に『よくわかる社会学』（共著）、ミネルヴァ書房、2006年。2013年度の担当講義は、前期：社会学入門B（水1）、現代社会学の方法（水3）、ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶）I（火5）、後期：社会意識論（金3）、知識社会学（水3）、ソーシャル・リサーチ（歴史と記憶）II（火5）。

メールアドレス：ssuto@waseda.jp ホームページ：http://www.f.waseda.jp/ssuto/

研究室：14号館1031室 オフィスアワー：金曜日 14:45～16:15

周藤ゼミへの招待

社会学は「普段われわれが当たり前のように捉えている社会に対して、そこで通用している常識を掘り下げていくことによって、社会というものを違った視点であらためて考えてみる営み」です。そのため社会学の対象は多岐にわたり、家族や組織などの人間関係を対象にすることもあれば、権力や社会問題やメディアをその研究対象とすることもあります。

このゼミでは主に、テキストの輪読および卒業論文に向けての個人研究を、学年を超えての発表やディスカッションを中心に行っていきます。毎年、夏休みや春休みには、ゼミ合宿を行い、ゼミ生の仲もよりいっそう深まります。

ゼミ以外でも、テスト期間明けの飲み会をしたり、ゼミ生同士で遊びに行ったりと、学業以外での親交も深く、上下関係もなく、プライベートでも良き仲間に出会える場となると思います。

周藤ゼミは今年で10年目を迎えます。年度ごとに扱うテーマも異なり、自分たちの興味に沿ったテーマやテキストを選択することができるので、やりがいのあるゼミだと思います。

わたしたちと一緒に、新しい仲間と出会い、社会学を楽しみ、有意義な学生生活を送りましょう！！
(幹事長：加藤 夏樹)

ゼミナールの構成 (各年次のゼミの目標とゼミの内容)

ゼミナールⅠ (2年生)

目標：社会学の基本的な考え方と知識を身につける

内容：入門的テキストの講読、古典などの基本テキストの講読

成果：年度末に翌年度の研究計画書を提出する。

ゼミナールⅡ (3年生)

目標：社会学の各領域について見識を深める

内容：各人の研究テーマに即した基本テキストの講読と研究指導

成果：年度末に研究レポートと卒業論文計画書を提出する。

ゼミナールⅢ (4年生)

目標：各人のテーマに基づいた研究を完成させる

内容：各人の研究テーマの探求と研究指導

成果：年度末に研究論文を提出する。



※2013年度の後期は、2年生もゼミナールⅡ(水5)にも参加してもらうため、原則として水4、5を連続で空けてもらうこととなりますので、注意してください。

研究テーマについて

本ゼミでは、各人の研究テーマの選択は、ゼミ生個人に任せられます。新2年生については、必ずしも応募の時点で研究テーマを決めている必要はありませんが、ある程度興味関心領域や方向性などは絞っておいてもらえると思います。2年生終了の時点で、だいたいの研究領域、研究テーマを決めて研究計画書を作成して提出してもらいますが、その後の研究の進展に応じて、研究テーマを変更することも可能です。いずれにしても、ゼミの場のみでは、社会学の広範な領域と様々な考え方すべて教えることは不可能なので、ある程度ゼミ生の自主的かつ主体的な取り組みが求められます。担当教員と連絡を取りながら積極的に進めてください。

【ゼミ生の研究テーマ・関心領域】

台湾におけるノスタルジーの活用とポスト
コロニアリズム
現代マンガに見る家族になるということ
現代社会における広告の変化
ゆるキャラブームとは何か
現代女性にとって農業とは何か
ファッション流行論
移民の国アメリカのナショナリズム
クール・ジャパン/クリエイティブ産業政策
「草食系男子」以後
テレビドラマに見られる社会状況
無縁社会と絆社会
現代社会におけるポピュラー音楽の位置
現代の消費社会における「舶来物」へのまなざし

【卒業生の進路(就職先)】

過去3年間の例

富士通システムソリューションズ(株)
(株)シェー・シー・ビー
(株)そごう・西武
住友商事フィナンシャルマネジメント(株)
トヨタ車体(株)
東京都庁
日本水産(株)
日本ビューレット・パカード(株)
日本電気(株)
北海道旅客鉄道(株)
(株)日立製作所
日本放送協会
(株)日本政策金融公庫
(株)神戸製鋼所
日本出版販売(株)
財畜産近代化リース協会



周藤ゼミの1年

	全体行事	2年生	3年生	4年生
4月	お花見			
5月	ゼミコンパ	新ゼミ生選考		
6月				
7月	ゲスト講師招聘	新ゼミ生顔合わせ		
8月				
9月		新ゼミ生合宿	夏合宿	卒論ゼミ合宿
10月			レポート提出	
11月	OB/OG会			
12月		研究計画書提出		卒論仮提出
1月			卒論計画書提出	卒論提出
2月	卒論発表会	春合宿		
3月	追出コンパ			卒業式

※上記は一例であり、年によって日程や内容が変更になる場合があります。

ゼミ生よいひとこと

周藤ゼミへの応募を考えている2年生に向けたメッセージを紹介します。（ ）内は、出身高校。

- 社会学を学ぶことで、今まで全く関係のないと思っていた、領域、分野が密に関わっていることが分かり、新たな視界が開けてくることを体験できると思います。一緒に知的感動を味わいましょう。（東海）
- 一緒に社会学について学びましょう。面白いゼミです。（恵泉女学園）
- 現代社会学ゼミはとても和やかで仲のよいゼミです。文献講読や研究発表だけでなく、みんなでアニメを見たりもします。研究対象の広さも社会学の魅力の一つだと思うので、自分が何を研究したいか定まっていなくてもオススメです。（和光国際）
- 自分の興味があることを研究対象にできるので、それを追求してみたいと思っている方はぜひとも。社会学を学ぶことで物事の見方ががらりと変わる、それも魅力の一つだと思います。（竹早）
- 和やかな雰囲気の良いゼミです！ぜひ来てください!!（浦和一女）
- 先生が熱く語ります。（桐朋）
- ゼミ合宿が楽しいです。みんな仲良くして和やかなゼミですよ。（札幌旭丘）
- この社会に当たり前のようにある常識とか暗黙の了解とかが腑に落ちないと思っているその君。社会学はそういうところに物申す学問です。来たれ変人。（明治学院）
- 普段からいろんなことに疑問を持ったり、好奇心旺盛な人にはびったりのゼミだと思います。自分がすでに知っていることでも新たな再発見があったり、思いもよらない発想で社会を見ることができたり、非常に興味深い学問です！（豊多摩）
- なにがしたいか決まっていなくてもオススメ。（海星）
- 社会について語ることは、もしかしたら自分について語ることもなかもしれない。社会を知ろうという意欲も、どこかで自己を知りたいという無意識的な欲求が支えているのかもしれない。“社会”という言葉の曖昧であるが、しかし我々の好奇心を誘ってしまう理由の一つがここにあるかもしれませんね。（鷺宮）
- はじめは入門の本を読んで社会学の中でも様々な分野を概略的に勉強できるので、初めての人でも安心です。その中で関心のあるテーマを見つけて自分のペースで研究できます。（戸山）
- ゼミの雰囲気は、ゼミ生同士も、ゼミ生と先生との間にもカベがなく、アットホームな感じ。飲み会では先パイも含めて全員と仲良くなれます。内容的には、様々な社会現象の裏にある仕組みを分析していく感じで、自分の考え方の幅が広がると思います。毎回色々なテーマが出てくるので、やりたい事が絞れてない人は、興味を持てる分野を探す事ができてオススメです。また、関心分野が多い人や、社会学の授業に興味を持った人にも合っているといます。（土浦一）
- 社会学は研究対象が幅広い学問です。私は、社会学が一つの対象に様々なアプローチが出来る学問である事に魅力を感じて、このゼミを選びました。好奇心旺盛な人には向いていると思います。あと、何と言ってもこのゼミの魅力はゼミ生のキャラの濃さだと思うので、気になる人は是非周藤ゼミに来て下さい！（江戸川学園取手）
- 社会学は領域が広いので、このゼミでは自分が感心のある分野を研究できます。また、他の分野もゼミ生の発表などを聞くことにより、興味を持てるようになると思います。（共立女子）
- このゼミでは、社会について身近なことも深いところまで掘り下げて、新たな視点を発見できます。ゼミ生同士がみんなとても仲が良いので議論も活発です。きっと有意義な時間が過ごせると思います。（厚木）
- 暑苦しさではない、ぬくぬくとしたあったかさが魅力です。浸かってみれ。（早稲田）
- 社会学はどんなものかみなさん最初はよく分からないと思います。初めは僕もよく分からなかったのですが、このゼミをとって本当によかったと思っています。社会学は様々な分野を研究テーマにできて、おもしろく、先生はとても優しく最高な人です！！このゼミをとって後悔はしないでしょう。（明星）
- 社会学というのは非常に幅広い学問であり、このゼミでも各々が興味を持つテーマを研究・発表しています。必ずしも自分の研究テーマと一致するものばかりではありませんが、それが逆に自分のテーマをより深く見ることにつながっています。個性溢れるゼミ生と共に、自己を見つめ直すことが出来る、それが自然に行われているのがこのゼミです。（小金井北）
- まだ自分のやりたいことが絞れないなとか思っている人、そんな人はうちのゼミにきたらいいと思う。ゼミ生の十五人、みんな研究テーマにばらつきがありいい刺激を受けられます。うちのゼミは基本的に社会学にこじつければ何を研究したっていいような自由な状況だと僕は感じております。とにかく自由な感じですので、束縛が嫌いな方とかには向いているんじゃないかな。周藤ゼミをよろしく。（桐蔭学園）

応募の前に（ゼミナール！応募生向け）

社会学がどのような学問であるか、「社会学」の講義をとったことがない方は、応募の前に、次のムックや入門書などを参照して、だいたいの感じをつかんでおいてもらえるといいと思います。

- アエラムック『新版 社会学がわかる』朝日新聞社、2004年3月、1365円。
- 宇都宮京子 編『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房、2006年10月、2520円。

社会科学部学生読書室の「選定図書」の周藤のコーナーには、上記のほかにもいくつかの入門書や、ゼミナールでこれまでに講読したテキストを入れてもらっていますので、ぜひ活用してください。

周藤ゼミ「現代社会学研究」パンフレット2013

発行日：2013年4月24日

発行所：早稲田大学 社会科学部 周藤真也研究室（〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1）